



KENJIKYO **MIE**

No94 2011.8

巻頭のことば

巻頭のあいさつ	1
三重県知事 鈴木 英敬	

総 会

平成23年度通常総会	2
------------	---

会長のあいさつ

平成23年度に向けて	3
会長 田端 隆	

委員会事業

委員会事業について	4
-----------	---

目 安 箱

雑 感	5
桑名支部 南部 廣美	

公益法人の役割	5
四日市支部 居村 年男	

いまこそまちづくりを	6
鈴鹿支部 宮崎 達也	

「事務所を開設し想う事」	7
津支部 田中 昭剛	

支部ひろば

志摩支部	8
------	---

伊勢支部	8
------	---

松阪支部	9
------	---

伊賀支部	9
------	---

事務所紹介

有限会社 南勢建築設計	10
-------------	----

中村章徳建築設計事務所	10
-------------	----

株式会社 白鳳建築設計事務所	11
----------------	----

株式会社 キヨミツ	11
-----------	----

お知らせ

平成23年度建築士事務所キャンペーン開催 建築士事務所全国大会に向けて	12
--	----

視点・論点

四日市支部 瀬川 宏	13
------------	----



巻頭のあいさつ

三重県知事 鈴木英敬



三重県建築士事務所協会の会員の皆様方におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日ごろより、建築主の利益保護を図るとともに、建築文化の向上や公共の福祉増進にご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、3月11日に発生した東日本大震災は、想定を越える大規模な津波が来襲した東北地方の太平洋沿岸を中心に壊滅的な被害をもたらし、わが国に大きな打撃を与え、私たち日本人の心に忘れることのできない衝撃を残しました。加えて発生した、福島第一原子力発電所の事故は、依然予断を許さない状況が続いており、周辺住民の避難生活が長期化するなど、被害はさらに深刻化しています。

私も被災地に赴きましたが、現場の実態は想像を絶する状況であり、塗炭の苦しみにあえぐ住民の皆様の姿を目の当たりにし、被災地の復旧・復興に向けた支援に、全力で取り組む必要があるとの思いを強く持ったところです。

三重県にとりましても、東海地震、東南海・南海地震など大地震は、いつ発生してもおかしくない切迫した状況にあります。このため、今回の大震災を踏まえた新たな津波浸水対策の検討や市町が実施する避難施設及び避難路の整備等に対する支援のほか、住宅の耐震化に対する補助制度の拡充や防災教育の充実などを行います。あわせて、橋梁や堤防等の耐震対策など地震対策にかかる公共事業を実施するとともに、既存の道路・河川・海岸施設などについて、緊急に総点検を実施します。

また、中部電力浜岡原子力発電所の全面運転停止に伴い、今後の電力需給が逼迫する状況となり、中部電力からの要請に基づき、貴協会にも省エネ、節電への協力をお願いしているところですが、ご理解を賜りますようお願いいたします。

このたびの大震災により、県民の方々の防災及び建築物の耐震性能等、安全・安心への意識が一段と高まることとなり、既存建築物の耐震改修が一層促進されることが想定されます。また、多くの人々が利用する建築物には、人にやさしい空間づくり、環境負荷への配慮なども求められます。これらの課題に対応するため、貴協会の会員の皆様方におかれましては、建築物の設計、工事監理などの業務にあたり、高度な専門知識を十二分に発揮していただき、県民の安全・安心に関する多様なニーズに的確に対応していただくことをご期待申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたします。



平成23年度 通常総会

平成23年度通常総会が、5月23日（木）午後3時より、津都ホテル5階伊勢の間にて開催されました。3月11日、日本を震撼させた東日本大震災で、沢山の尊い命が奪われました。総会の前に、全員で一分間の黙祷を捧げました。

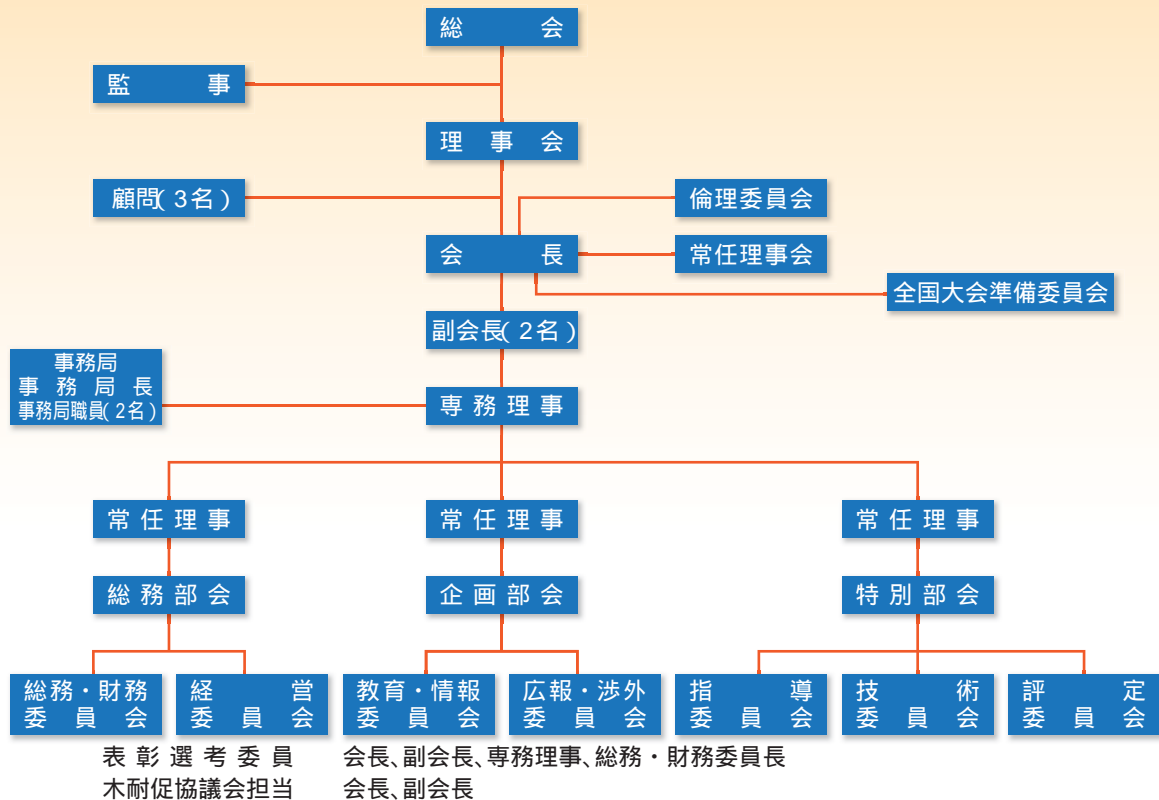
総会では、田端隆会長の挨拶からはじまり、来賓の方からご祝辞を頂きました。

議事については、第1号議案から第6号議案として平成22年度の事業報告及び決算ならびに平成23年度の事業計画及び予算、また定款改正案等が承認されました。

総会終了後、同ホテルにて懇親会が開催され、会員の親睦が深まりました。



社団法人 三重県建築士事務所協会 H23年度 組織表





平成23年度に向けて

会長 田 端 隆



会員の皆様には平素、本協会につきまして御理解、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。また、3月11日に発生いたしました東日本大震災で、お亡くなりになった方々に深く追悼の意を表しますと共に被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

本協会においては、日頃耐震診断判定会を行っていることから、5月14日及び15日に私も建築物の被災状況調査に評定委員会の委員等と宮城県へ行かせて頂きました。特に津波の被災地を訪れその惨状を目の前にして三重県に於いても想定される東海、東南海、南海地震の来襲を考えると、他人事ではないという気持ちと共に、協会として県民の方々の安心、安全に関わる建築物の耐震化を、更に推進していかなければならないと強く感じました。また、調査の際には宮城会の方には大変お世話になりありがとうございます。

さて当協会の事業ですが、昨年の津市公共建築物定期検査業務（建築）は無事完了し、ご協力頂きました会員の皆様にはお礼申し上げます。また、本年度に引き続き設備についてもご協力頂いていますが、色々ご迷惑をおかけしお詫び申し上げます。

本協会もここ数年は事業も多く、財政的にも安定をしておりましたが、本年度は収益事業の柱である耐震判定業務も昨年の1/3程度に留まる見込みもあり、採算のとれなくなる判定会も他県ではあるようです。

現状としては何とか健全な財政運営を保つように努力してまいりますが、理事の皆様におかれましては財政的な危機感を共有して頂くと共に、正副会長、常任理事等で財政に関する戦略会議を設けましたので、理事及び会員の皆様からも当協会の事業としていけるような種々な情報やご提案があればご紹介等頂きたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

また本年は既に県市町へ、金額のみによらない総合評価等の入札の実施、適切な最低制限価格設定、地元業者への優先的な発注等の要望を致しております。

協会の事業の推進といたしましては、会員サービスの充実に努める為、講習会等の資質向上の為の事業推進、また、会員外との差別化の為の「完成保証制度」及び会員が設計監理を行う場合の「住宅ローン金利優遇」について今年度中に実行致すべく各関係者と調整し進めております。

また、本年予定されていた建築士事務所全国大会（福島大会）は大震災及び、原発事故にて開催を断念することとなりましたが、来年は東京での大会が予定され、また、その翌年平成25年には「三重大会」を予定しており、全国大会準備委員会を中心にいろいろ準備を進めていく必要があると考えております。

以上のような状況から本協会の会員が一丸となり、この局面を乗り切っていかなければなりませんので会員の皆様のご支援とご協力を是非お願いいたします。

最後に会員各位のご健康とご発展を祈念致しまして結びの言葉とさせていただきます。



委員会事業について

総務部会

総務部会担当常任理事 梶尾重信

・23年度が始まり、今年度の総務・財務委員会、経営委員会の活動方針につきまして次の様に進めていきたいと思っておりますので皆さんの御理解と、御協力の程宜しくお祈りいたします。

総務・財務委員会

- ・公益法人制度改革に伴う、一般社団法人への移行において、平成24年4月登記を目指し、その為の書類作成、諸規定、細則等の整備を進めていきます。
- ・会員の増強を図り、法定団体としての監督体制の確立、各種保険制度の加入促進に努め組織の強化拡充を進めていきます。

経営委員会

- ・行政（県、市、町）への要望・陳情を実施します。
- ・告示15号に基づく業務報酬基準の確立・普及を進めていきます。
- ・完成保証制度の運用を整備・実施します。

企画部会

企画部会担当常任理事 國分恵之

平素におきまして会員の皆様におかれましては、本会活動にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。企画部会担当常任として、会誌発行における広報・渉外委員会の作業状況を紙面をお借りしてご報告させて頂きたいと思っております。

「建事協みえ」発行担当委員会の広報・渉外委員会におかれましては、前年度に於いて「No.92・No.93」を発刊頂き、任期最終2年目の初刊としてNo.94の発刊となりました。前年度の会誌発刊に於いてはこれまでの流れを継承して頂いたもので有りましたが、会誌No.94に於いてはこれまでの1年間の経験を元に委員長及び委員会の皆様が、掲載内容の見直しを行い、新しい視点の中で校正を行って頂いております。

まず会誌をお手に取って頂いた時点で、表紙の校正がこれまでの手法とは違っていることに、お気づいたと思います。又、平成25年に予定されています全国大会の三重大会に向けてのコマーシャルになる記事を載せ、他の単位会に会誌を発送し三重大会への啓発活動に役立てたいとも考えております。

全てが全て一新するところまでの校正ではありませんが、出来るところから少しでも新しい試みに挑戦をして頂いている、広報・渉外委員会の思いを会員皆様にお知らせをさせて頂きます。又、今後の会誌にご期待を頂きたいと思っております。

特別部会

特別部会担当常任理事 鳥羽谷和幸

平成22、23年度、常任理事を任命され、技術委員会、指導委員会、評定委員会の担当常任を受け持つことになり早1年がすぎました。今年度の各委員会についても総会時に発表しました事業計画を基本により充実した委員会運営を進めて行きたいと思っております。

1)「技術委員会」

前年度は、構造仕様書など、三重会の独自の仕様書を作成に従事してきましたが、今年度は建築特記仕様書などの作成を委員会として進めていく考えです。

2)「指導委員会」

今年度は、弁護士会、行政との連帯は元より、東海北陸ブロックでの勉強会、意見交換を活発に進め苦情解決業務を円満に進める。

3)「評定委員会」

前年度と同様に耐震診断、補強に関する判定業務、及び指導を活発に活動を推進していきたいと思っております。

以上、23年度の各委員会の方向性を示します。



目 安 箱

雑 感

桑明設計
桑名支部 南部 廣美

建築事務所を始めて29年になります。協会へ入会してから23年になります。長い年月経ちましたが、「今まで建築士として何をやってきたのだろうか」と支部の広報渉外委員長の和波さんより投稿の依頼がきた今自問しながら思いつくまま書いてみます。協会員が増えないのは何かと考えますとまず設立当初から懸案の建築士事務所法がいまだに宙に浮いている、年間会費が高い、入会しなくても業務に差し支えない、等さまざま想像できます。法律の無知による失敗を描いてみます。ある自治体より9箇所の福祉バス停の屋根（5㎡弱）を設置する仕事を入札で請けました。内7箇所は歩道上の設置物でした。一箇所は駅構内一箇

所は水路敷き内でした。昨年入札も済み今年1月に基礎工事に着工しようと看板を掲げたところ役所より7箇所については建築許可（道路上の建築物）及び確認申請、水路敷き上の1箇所については確認申請が必要とのこと正月気分もぶっ飛び対応策に追われました。許可に関しては建築審査会の協議事項としている指摘を受け¥33,000×7を払って許可を受けました。それから確認申請（¥25,000×8）の段階でアルミの合金造（柱及梁は鉄骨造）なので構造計算書（60P）を添付しました。一部第一種住専なので壁面後退の指摘を受け62歳（八方塞がりだそうです）になってから新年早々寿命が縮みました。

幸い自治体のご厚意により県証紙代金は持って頂きました。ただ既存のバス停屋根が許可及び確認を受けているかは疑問です。みなさんもバス停の屋根の仕事を請けられるときは頭の片隅に留めておいてください。建築士の定期講習を必ず受けましょう。

公益法人の役割

アイアンドアイ居村建築事務所
四日市支部 居村 年男

2005年に発覚した計算書改ざん事件に端を発した法改正と運用方法の改訂に伴う混乱にもようやく収束のめどが見えてきた観がある。が、この5年余の間に建築業界が払わされた不要の労力は膨大なものである。もともと、一技術者の為した不正と、その不正を見抜けなかった検査態勢の不備とに原因が求められる一事件に過ぎなかったものが、マスコミの見込み報道とそれに同調した国会

の鳴動とを経て「建築士性悪説」とまで公に叫ばれる事態に至ってしまった。その結果、十分な検討が為されないまま行われた法改正とその不備とに端を発した混乱が繰り返されてきた。一事件とは云っても結果は重大で、社会に与えた衝撃も大きく、同時に計算書に対する検査態勢の不備を理解していただけない程度に負担増は織り込み済みではあったが、この度のように準備不足に基づく混乱が繰り返されたことには憤りを隠せない。

そろそろリタイアを考える年齢で例に漏れず過去の話が頭に浮かぶが、過去に経験した大きな法改正の際には施行予定の1～2年前に公示がなされ、十分な準備期間が確保できたものである。準備が整った設計者は施行以前から図面に織り込



み、同時に関係するメーカーも改正法対応商品を準備し、工事関係者も態勢を整えて施行の日を迎えた記憶がある。また、公示の内容も充分準備されたもので、訂正はほぼ印刷校正の範囲にとどまっていた。

今回は重大な事件を背景に改正を急ぎすぎた感が否めず、改正の及ぼす影響に対する配慮を欠いたものと云わざるを得なかった。確かに影響を把握する手段としてのパブリックコメントの収集も為されてはいたが、あくまでパブリックな意見で、影響を総合的に評価する意見は出され難く、こうした社会性を持った意見を集約する機関としての

公益法人がその充分機能を果たせなかったことにも大きな責任があったのでは無いだろうか。

法人としては念願であった指定機関を得、財政基盤に効果があったかも知れないが、その構成員の利益と社会の利益や正義を守るためにははなはだ不適切な対応であったように感じている。

今後、益々専門化が進む建築社会にあっては、いくら優秀な行政マンであってもその影響を十分に掌握することは難しく、行政と社会とを繋ぐパイプ役として必要な意見を発言する役割が期待されている。



いまこそまちづくりを

宮崎建築事務所

鈴鹿支部 宮崎 達也

同業者の会報なので、誤解を恐れず、本音を書いてみようと思います。

最初は違和感を感じましたが、なぜ「先生」と呼ばれるのか、最近になってようやくわかりました。建築設計をしていらっしゃる方は、博識、勤勉で平均的な人よりは数倍知識と知恵を持っていると思います。設計をするためにあらゆることを調べたり学ばなければならず、しかもそれが全て実務の中で活かされるので、忘れることがありません。

しかし、現在の仕事の形態はどうでしょうか。先生と呼ばれるにふさわしい仕事をしている人は、少ないのではないのでしょうか。

官庁の仕事をする、図面を提出し、チェックを受け、赤ペンで真っ赤になった図面を打合せで持ち出され、修正したりします。私の場合、最近、個人邸でもそのようなことがありました。こういう仕事の仕方をしていると、「先生」というより「生徒」のような気分です。

そして、この場合の先生は、果たして先生として

ふさわしい知識と知恵を持った人であるかということ、大変失礼ながら、やや疑問な場合もあります。

このような逆転現象が起こっている限り、建築士の地位が向上し、労働にふさわしい報酬を得られることもありません。そして、修正したことによって、事態が良くなるというより、むしろ悪化する場合も多いのではないのでしょうか。従って、ユーザー、設計者、双方にとってよくない事態が起こります。

この状態を改善するために、どうすればいいか。その答えの1つは「まちづくり」をすることだと思います。これは昔から著名な建築家がつけてきた手法であると思います。ただ、地域に密着し、もっと現実性を帯びた内容が必要です。地域性や経済などあらゆることをリサーチして、実現可能かつ高度にデザインされたまちの提案。そういった提案には、直接の報酬はないかもしれませんが。目的は地域社会のリーダーとなることなのです。

そうすれば行政、市民からは尊敬され、赤ペンで直されることも...なくなりはしないかもしれませんが、減少すると思います。そして、自分の住むまちが発展し、秩序の整った美しく幸せなまちに生まれ変わります。

別の側面から見れば、イノベーションを生み出す可能性もあります。スマートグリッドに対応したスマートハウスがあるように、都市と一体化し



た建物の提案が生まれるかもしれません。

また、これから起こるといわれている大地震に対しての防災の観点からも、自分の家族や友人を守るためとなれば、きめ細かな配慮が出来るのではないのでしょうか。

地元の建築士が参画することで、企業や国の外

郭団体など外部の人間には出来ない、その場所に適したまちづくりが出来、その中で、思う通りの仕事、報酬を得ることも可能と思います。

具体的にどのような運動をしていけばいいのか、まだわかりませんが、一緒に考えていきませんか。



「事務所を開設し思う事」

類建築設計事務所

津支部 田中 召剛

今年2月、長年勤めさせて頂いた事務所を退職し独立開業しました。思えば高校・大学と建築とは畑違いの道を進んできた私にとって、今こうして設計の仕事をしている事は想像できなかったでしょう。卒業後勤めていた会社が建築に係る仕事であったことから、日々の仕事を覚えていく中で、設計の仕事に対して少しずつ興味と憧れを持って

いきました。当時はバブル経済でこの業界も活気があり、経験がない私でも「やる気があれば一から教えてやるよ。」と採用して頂ける設計事務所があり、新たな一步を踏み出すことが出来ました。出勤初日、事務所には私用のドラフター（でも机は注文が間に合わず4～5日無かったような・・・）や真新しい文具類・制服などが用意されており、スタッフの方々にも温かく迎えて頂き気が引き締まる思いであったのを覚えています。在職中に多くの方に仕事を教えて頂いた事、助けられた事への感謝や自らの志をこれからも忘れる事なく、初心に帰って仕事をしていきたいと思う毎日です。



志 摩 支 部

会 員 数	12名
支 部 長	寺本建築設計事務所 寺本 稔
副支部長	向井照雄建築事務所 向井 照雄
監 査	ナカムラ設計 中村 政文 井村建築設計 井村 立
会 計	(有)林設計事務所 中村 豪

事務協の一般社団法人への移行に伴い、今年度の支部総会では意気込みも新たに、より一層地域に根ざした事業計画について協議いたしました。中でも当支部はこれまで十数年間というものの会員数に変動が無いため、現在この地域で活躍されている若い建築士達の会員増強を目指します。また、会員のための研修会や勉強会に力を入れると共に、地域に根ざした広報活動を実施する所存です。

志摩支部も「民による公益の増進」の良き担い手となるために、会員力を合わせまずできることから取り組みたいと考えています。

伊 勢 支 部

会 員 数	28名(平成23年4月1日現在)
支 部 長	計画工房ルルム 濱出 進
副支部長	一級建築士事務所梅田設計 梅田 隆生
副支部長	(有)南勢建築設計 伊東 俊一
他 役 員	6名
事 務 局	〒519-0413 度会郡玉城町妙法寺565 - 7 北出建築設計事務所内 TEL 0596-58-7090



平成23年度 支部総会 4月25日(月)PM 1:30 ~
三重県建設業協会伊勢支部にて、事業報告・収支決算報告 等

平成23年度 委員会事業計画

- ・例会委員会 委員長：濱口 太(通常例会開催、CPD認定手続等)
- ・研修委員会 委員長：高橋 衛(研修及び見学説明会等)
- ・企画委員会 委員長：橋本 博文(本部キャンペーンの協力等)
- ・厚生委員会 委員長：吉川 松喜(視察研修旅行等)

他 11月頃 親睦研修旅行(海外検討)

平成24年1月7日(土)支部新年会

私たち伊勢支部は、環境と建物の共生をめざし、建築の耐震問題等の悩みごと相談、建物づくりのお手伝いを行っています!



松 阪 支 部

公益法人改革により松阪支部も新たに松阪建築協会を発足し、平成23年5月28日（土）午後6時より市内フレックスホテルにて松阪建築協会結成記念式典が開催されました。式典は、芳賀信次、松阪建築



協会会長のあいさつにはじまり、山中光茂市長はじめ顧問の田村憲久衆議院議員、竹上真人三重県議会議員、に来賓として御列席いただきお祝いの挨拶をいただきました。式典は1時間ほどにて閉会し、ひきつづき祝宴に移り、当協会の田端会長より乾杯の音頭を取っていただき2時間ほど楽しい時間をすごし、すばらしい記念式典になったことをお知らせします。

伊 賀 支 部

伊賀支部では、2003年度から「無料設計コンペ」という事業を行っています。

今はWEBでさまざまな住宅設計コンペを開催していますが、開催当時としてはそれはしりの頃でした。建築設計へのニーズが多様化し、建築主の要望が大きくふくらみ、それを現実化するためにどうしようか迷っている建築主が増え始めたのです。さらに、建築主が若返ってきてインターネットを利用する世代に変わってきたこともネット上のコンペを後押ししました。



伊賀支部ではこの様な風潮をいち早くキャッチし、斬新なこの事業を始めました。

現在まで、3人の建築主とお会いしています。住宅だけでなく、店舗もあります。いずれも建築主の要望がそのまま形になった作品であると自負しています。

以下は、伊賀支部「無料設計コンペ」のキャッチフレーズです。

「住宅設計コンペ」は、あなたが主催者です。あなたの希望を、プロの建築士が形にします。

提案された複数のプランの中から、あなたは最良のプランを選ぶことが出来るのです。

これに興味を持たれた方は、ぜひ伊賀支部事務局までご相談下さい。

あなたの夢を現実にします。



第1回作品



第2回作品



第3回作品



伊勢支部
有限会社
南勢建築設計

所在地：〒516-0035 伊勢市勢田町580-3番地
T E L：0596 - 25 - 7667
F A X：0596 - 25 - 8201
代表者：伊東 俊一
設 立：昭和34年7月16日



昭和34年7月に創業者 伊東貫一
が旧南勢町五ヶ所で開業を致しました。

当時は個人事業として社名も「南勢建築設計事務所」でした。

その後伊勢の地へ移転して事業をしており、昭和61年4月～現在の代表者の伊東俊一が入社しました。

創業者は、木造に関しては研究や実験も多数行い特許も取得したりしておりました。

残念ながら特許が売れた話は、聞いたことがありません…。建築での特許は大変難しいと思っていますし、出来たら多くの方が使えるように公開すると良いとも思います。

その関係で木造建築の依頼もあり、在来軸組工法の構造計算なども手がけております。

昭和48年から営業しておりました事務所も有限会社に組織変更して「(有)南勢建築設計」になり、最近では手狭になったので今年の4月から100m程離れたところに事務所を移転しました。

特に移転に際しては駐車場の問題がネックにありました。何処の事務所も同じ悩みが有ろうかと思えます、今は皆が自動車通勤するし来客もあるのでパーキングの台数が少しでも多いところに致しました。

現在の社員に100年企業として、後48年継続できる事務所づくりを託しております。

どうぞ会員の皆様、ご指導宜しくお願いします。

事務所
紹介

事務所名：中村章徳建築設計事務所
所在地：〒517 - 0011 鳥羽市鳥羽5丁目11 - 4
T E L：0599 - 25 - 3272
F A X：0599 - 26 - 5093
代表者：中村 章徳
E-mail：nakamura-a@seagreen.ocn.ne.jp

志摩支部

中村章徳
建築設計事務所

昭和59年に開設し26年たちました。
地域がら漁協関連の施設の仕事も多く携わってきました。

漁業関係者も東京電力の福島第1原発事故の影響で、風評被害等で困っているようです。

今後は特にエコ建築、自然エネルギーを利用した建築、そして、地域に密着した設計を行っていきたいと思いますので、皆様のご指導をよろしくお願いします。





所在地：三重県伊賀市平野東町107番地
 TEL：0595-23-6112
 FAX：0595-23-6132
 代表取締役：田中 敏也
 E-mail：hakuho@ict.ne.jp
 設立：昭和47年7月

伊賀支部
 株式会社
 白鳳建築設計
 事務所

代表取締役を引継いで3年目を迎えました。
 戸惑いながらも、会長やスタッフみんなの支えがあり建築
 業界が厳しい中、日々暮らしております。

当社の仕事内容も数年前と比べて、かなり様変わりし福祉
 関係・ホームセンターといろんな面で研究の毎日であります。



自社の将来がどうあるべきか、答えは無いもののおぼろげながら見つけ出して、厳しい現状の中たどり着けるように諦めることなく、努力し夢を持ち続けてスタッフみんなと頑張っていきたいと思っております。



事務所
 紹介

桑員支部
 株式会社
 キヨミツ

所在地：〒511-0836 桑名市江場828
 TEL：0594-21-1007
 FAX：0594-23-4688
 代表者：清田 篤人
 設立：平成15年10月1日

当事務所は桑名市の南に位置し、開設9年目をむかえたまだまだフレッシュな事務所です。

常日頃より、クライアントと共に簡素で力強く、洗練されたデザインで心地よい空間を目指して奮闘努力しております。



また、昨今では自然エネルギーなどの『環境』をキーワードに複雑化する業務に四苦八苦しながらも『建築』を楽しむよう毎日を過ごしています。

まだまだ若輩者ではありますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。





お知らせ

平成23年度建築士事務所キャンペーン開催

平成23年度の建築士事務所キャンペーンは、「信頼のあかし 建築士事務所協会～わたしたちは安全・安心な住まいづくりを応援します」を統一テーマとして、法定団体としての建築士事務所協会及び会員である建築士事務所の業務の周知を中心に国民へ広報するとともに、建築士事務所の業務である耐震診断の重要性及び必要に応じた確かな耐震補強についての周知など幅広い情報の提供を目的に、10月、11月を中心に全国統一テーマのもと実施されます。

三重県は四日市支部の担当で三重郡菰野町の福祉施設を会場に計画を立案中です。

建築士事務所全国大会に向けて

全国大会準備委員会

西井委員長のもと平成25年の第37回全国大会 三重大会（予定）に向けて準備を進めているところでありますが、会員の皆様これまでの報告をいたします。

20、21、22年度で10数回の準備委員会を行い、日程、会場等について計画提案し、日事連で了承されています。

今後、日事連と決めていかなければならない実施要項案等の事項が沢山あります。

全ての会員の皆様のご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

開催概要案

大会 期 日：平成25年8月9日（金）10日（土）
 大会 会 場：伊勢市 三重県営サンアリーナ
 大会 テーマ：検 討 中
 大会スローガン：検 討 中
 大会 宣言：検 討 中
 エクスカーション：1日神領民としての白石持ち行事参加
 その他視察等



開催までの流れの概要

- * 開催2～1年前
 組織（多くの会員が参画する実行委員会）をつくる
 開催概要を決定する
 会場を確保する
- * 開催1年～6ヶ月前
 実施要項を決定する、講演、後援等の手配を行う
- * 開催6ヶ月～1ヶ月
 協賛等各種手配・発注を行う
- * 開催1ヶ月～直前
 大会準備の総点検
- * 開催前日
 大会準備の総点検
 リハーサル
- * 開催当日
 運営活動
- * 開催終了後
 終了後の事後処理

全国大会準備委員会名簿

委員長	西 井 洋 一
副委員長	相 原 清 安
委 員	堀 崎 萱 二
"	梶 尾 重 信
"	新 開 悟 弘
"	藤 川 啓 志
"	鳥羽谷 和 幸
"	濱 出 進
"	寺 本 稔
"	西 出 章
"	前 田 裕 也
事務局	谷 口 孝 夫 専務理事



視点・論点

未曾有の被害をもたらした東日本大震災、発生から4か月以上経過しましたが、多くの方がいまだに避難所での生活を強いられ、落ち着かない生活を余儀なくされています。

想定外の大地震と大津波、更には安全神話が崩れた原発事故、加えて一向に軌道に乗らない被災者への救済策など、2重・3重の苦しみから一日も早く解放されることを願うばかりです。

起きてしまったことは認めるしかありません。しかし、被災された方の救済と地域の復興は早急に行う必要があります。

震災に続いて起きた原発事故を巡って被災者と行政（とりわけ国）との温度差はあまりにもかけ離れていると言わざるを得ません。

被災者の救済や地域の復興が政争の道具として利用されているようで、やりきれない思いです。

今こそ党利党略を超えて復旧・復興支援策を実行してもらいたいものです。

さて、我々の住む三重県も、必ず起きると言われている「東海・東南海・南海」地震に対して十分な備えが出来ているのでしょうか？ 歴史的に見て、駿河湾から四国西部までの約600kmは南海トラフと呼ばれ、マグニチュード8クラスの巨大地震が繰り返し起きています。東海地震の震源域とされる駿河湾では1854年の安政地震以来、150年以上も沈黙を続けています。

今回の大地震で、かなり大きな地殻変動が起きている事は、その後広範囲で頻発している地震を見ても明らかです。

私たちの住む三重県も近い将来間違いなく巨大地震が来ると思われます。東日本大震災では、余りにも津波の被害が大きただけに、内陸部の住宅被害は報道が極端に少なく、その実態を知る人が少ないと思います。

地震の揺れが大きかった内陸部では、住宅の倒壊や液状化現象による建造物の損壊が多くみられるということです。

ただ、過去から地震が多く起きている地域で、家具等の固定が徹底されており、地震の揺れで飛んだ家具により怪我をしたり、死亡したりする人が少なかった事は大いに参考にすべきだと思います。

三重県や各市町が推進している昭和56年以前の木造住宅の耐震診断や補強は、まだまだ他人事ととらえている人が多いのが実情です。歴史は確実に繰り返されています。「備えあれば憂いなし」という先人の教えを今一度思い起こし、来るべき有事に備えたいものです。

（四日市支部 瀬川 宏）



改正省エネ法対応なら、

省エネ法対応サポート契約

2010年4月からの改正省エネ法の施行にともない、指定対象が事業所単位から企業単位に。エネルギー使用状況を計測・記録し、定期報告書や中長期計画書などの提出が義務づけられる企業が増加します。この複雑な管理業務は、

「省エネ法対応サポート契約」におまかせください。事業所単位で、企業単位で、全国に点在する事業拠点の電力使用量などの各種データを自動収集。そのデータを分析し、改正省エネ法で定められた各種報告書などの作成までをトータルでお手伝いします。



まかせて省エネ

検索



ビルを、まるごと、エコチェンジ。

ビルを、まるごと、心地よくする。

三菱電機ビルテクノサービス株式会社

中部支社 ファシリティ事業統括部 ファシリティ営業部

〒450-6045 名古屋市中村区名駅1-1-4(JRセントラルタワーズ45階)

TEL(052)388-1114

<http://www.meltec.co.jp>



For Precious Life

<http://inax.lixil.co.jp/>

トイレは、 オンナゴコロ。



オンナゴコロ、それは夢と理想をもつココロ。
オンナゴコロ、それは気配り、思いやり。
オンナゴコロ、それは美しさにときめいて。
オンナゴコロ、それはちょっぴり、よくばり。

トイレをもっとしあわせな場所にするカギは、
「オンナゴコロ」にありました。
INAXはこの「オンナゴコロ」を大切に
誰もが「うちのトイレが好き♥」と言える
しあわせをお届けします。



INAXは「オンナゴコロ」を大切に、 誰もが「うちのトイレが好き♥」と言えるしあわせをお届けします。

ポイント いつもキレイにしたい

楽・楽しっかり清掃

●お掃除リフトアップ

お掃除ができなかったすき間汚れが、奥まで楽に拭き取れて、気になるニオイの元もカットします。



ポイント 女性ならではのこころ配りが大事

思いやりプラス

●レディスノズル

INAXはノズルが2本。ビデ洗浄にはおしりととは別の女性専用「レディスノズル」。女性にやさしいINAXならではの思いやりです。



ポイント もちろんエコも大切

節水&節電

●超節水トイレシリーズ

さらに進化したECO5(大5L/小3.8L)をはじめ、ECO4(大4L/小3.3L)も新たにラインナップ。超節水トイレシリーズは従来品に比べ大幅節水を実現したエコロジー&エコノミーな便器です。

ECO4
大4L/小3.3L

ECO5
大5L/小3.8L

ECO6
大6L/小5L

ポイント 見た目もステキにしたい

こだわりフォルム

●空間と調和するシンプルでムダのないデザイン

機能を凝縮し、ゆとりを生むコンパクトなボディ。便器やリモコン、アクセサリーまでデザインや質感にこだわっています。

オンナゴコロときめく
INAXトイレシリーズ



株式会社LIXIL 中部支社 三重支店

三重県津市藤方南八木田1067-2 〒514-0815 TEL:059-226-1737 FAX:059-226-1727

住む。暮らす。生きる。LIXIL

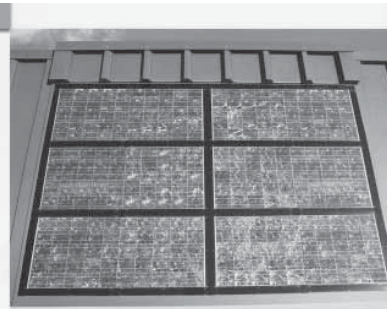
トステム・INAX・新日軽・サンウエーブ・TOEXは、株式会社LIXIL(リクシル)の製品ブランドです。株式会社LIXILはお客様の多様なニーズにお応えする商品とサービスをお届けしていきます。

地球の未来を考える サンコーソーラーシステム

ユニットタイプ

ユニットソーラー I型 (標準枠)

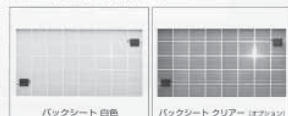
建材一体型で屋根機能を有しています。ユニット化により施工品質と簡素化を実現しました。
また、裏面のバックシート(白、クリア)を通し、淡い光を透過させることにより、太陽電池が視認でき、明るさの確保と環境配慮のイメージアップが図れます。



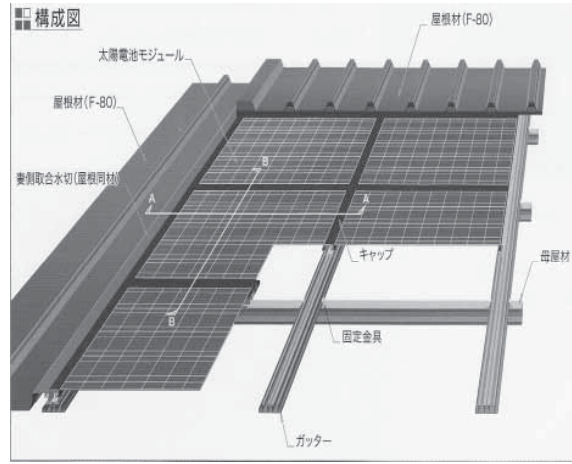
■ ユニット規格

モジュールメーカー名	K系タイプ	SH系タイプ	M系タイプ
モジュールサイズ (mm)	W1500 × L880	W1652 × L894	W1657 × L859
公称最大出力 (W)	208.4	210	190
質量 (kg/モジュール)	19.5	21.0	17.0
ユニット幅寸法 (mm)	W1577 × L1026	W1728 × L1030	W1734 × L894
質量 (kg/ユニット)	29.8	32.0	27.6

■ ユニット裏側外観写真



■ 構成図



縦葺タイプ

I型 (アモルファス系) アモルファスフラット

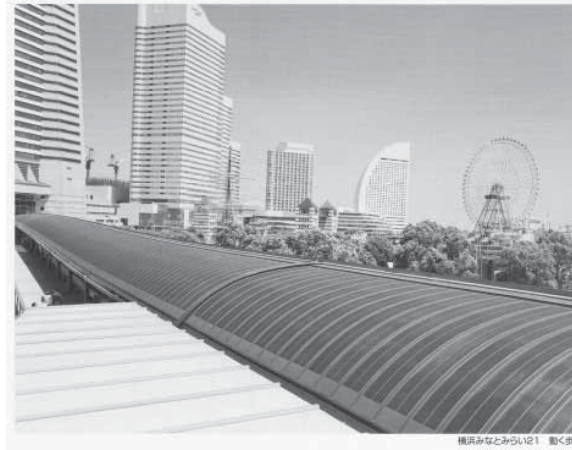
屋根材一体型で意匠性に優れ、「軽い・曲がる・薄い・割れない」フィルム基板の太陽電池です。



■ 電気的特性

太陽電池タイプ	アモルファスシリコン	公称最大出力動作電圧	306.4V	備考 ・22条区域屋根の技術的基準 (耐火試験等) 申請中。 ・屋根耐火30分構造認定 FPO30RF-0555 ・設置面積目安20.2m ² /kw
寸法 (長さ)	長さ: 3,800mm / 幅500mm	公称最大出力動作電流	0.282A	
質量	15.7kg/枚 (8.3kg/m ²)	公称開放電圧	426V	
公称最大出力	86.4W/枚 (45.5W/m ²)	公称短絡電流	0.388A	

※上記の数値は、JIS C8932で規定するAM1.5、日射強度1kW/m²、モジュール温度25°Cでの値です。仕様は選定のため変更される場合があります。



横浜みなとみらい21 観く歩道

横葺タイプ

I型 (アモルファス系) アモルファス段ルーフ230

横のラインをシャープに強調した、フィルム基板の屋根材一体型太陽電池のため、軽量性・意匠性・フレキシブル性に優れています。勾配屋根に最適で、積雪地域にも対応できます。(積雪地域: 屋根勾配2.5/10以上)



■ 電気的特性

セルタイプ	アモルファスシリコン	公称最大出力動作電圧	153.2V	備考 ・22条区域屋根の技術的基準 (耐火試験等) 申請中。 ・屋根耐火30分構造認定 FPO30RF-Q27B ・設置面積目安20.2m ² /kw
寸法 (長さ)	長さ: 1,900mm / 幅230mm	公称最大出力動作電流	0.141A	
質量	3.8kg/枚 (8.7kg/m ²)	公称開放電圧	214V	
公称最大出力	21.6W/枚 (49.4W/m ²)	公称短絡電流	0.194A	

※上記の数値は、JIS C8932で規定するAM1.5、日射強度1kW/m²、モジュール温度25°Cでの値です。仕様は選定のため変更される場合があります。



三重大学バイオディーゼルの研究

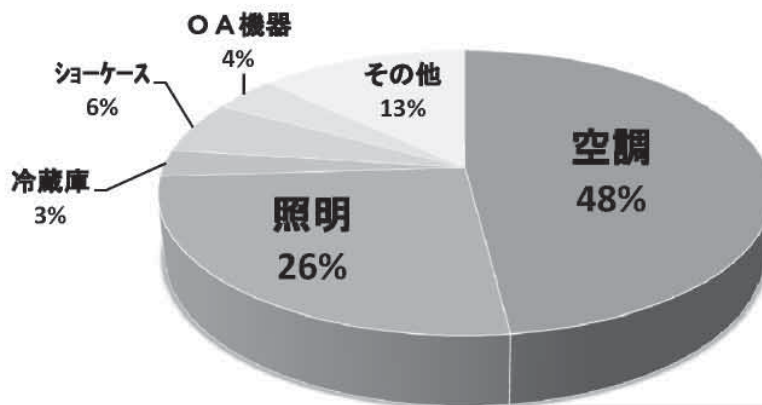
 三晃金属工業株式会社

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル11F
http://www.sankometal.co.jp/

三重営業所
〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目114番1号
丸山ビル2F
TEL 059-226-1011 FAX 059-226-1266

中部電力からの 節電のお願い

夏の日中に使われる電気の約48%が空調に使われます。



※出典：小口需要家の節電行動計画の標準フォーマット
(H23年5月：資源エネルギー庁)

①冷房温度は**28度**を目安に

設定温度を2度上げると、
約10%の節電効果があります。

※在宅世帯の日中の平均的消費電力に

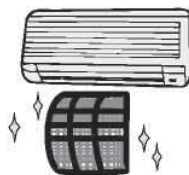


④**扇風機を併用**すると
より涼しく感じます。



②月に1~2回、
フィルターの掃除を

目詰まりすると冷房の効率が
下がります。



⑤**室外機のまわり**は
風通しをよく

まわりに物を置くと
冷房の効率が下がります。

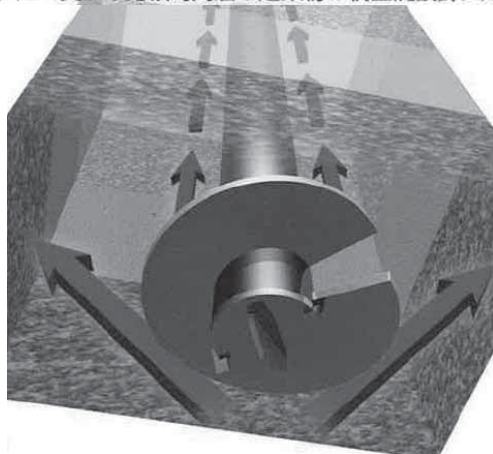


③**すだれ**や**よしず**などで
窓からの日差しをやわらげましょう。

回転杭工法の先発メーカーとして、新たな提案でお役立ち致します。

イーゼット引抜き支持力の活用 EAZET

2008年7月に取得したイーゼット引抜き方向の許容支持力。杭周面の摩擦抵抗に加えて、先端拡大形状のイーゼット杭材が、支持層へ根入れすることにより発揮される引抜き支持力について、正式な性能評価を得ております。塔状構造物、階高が高く風圧等の影響を大きく受ける比較的高層な建築物の杭基礎設計に対して、有効な杭提案を行うことが出来ます。



●許容引抜き算定式（短期）

$$Ra = \frac{2}{3} \left\{ \kappa \bar{N} A_{tp} + (\lambda \bar{N}_s L_s + \mu \bar{q}_u L_c) \Psi \right\} + W_p$$

■引抜き力係数

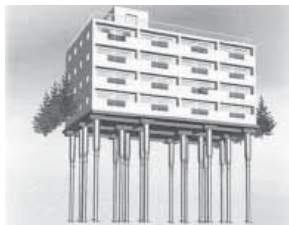
先端引抜き力係数	$\kappa = 80$
砂質地盤の引抜き力係数	$\lambda = 1.3$
粘性土の引抜き力係数	$\mu = 0.08$

引抜き許容支持力算定例 (N=50)

仕様		引抜き支持力		
杭径 (mm)	先端羽根径 (mm)	先端部 (kN)	周辺摩擦力 (kN)	合計支持力 (kN)
φ216.3mm	φ550mm	210	36	246
φ267.4mm	φ800mm	398	45	443
φ318.5mm	φ700mm	410	53	463

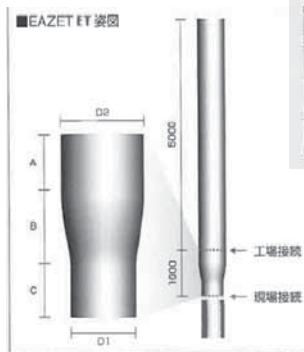


イーゼットETの有効活用



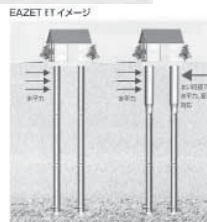
イーゼットETとは……

EAZET ET(イーゼット Extended Top)は、新日本製鉄の優れた製造技術により実現した一体成型型テーパー鋼管を採用する、新しいイーゼット杭仕様です(建築基準法第37条指定材料 MSTL-O230)。これまでの同一杭径に限定された提案から一歩進んで、地中部に作用するモーメントに的確に対応、地震時の水平力、杭頭変位に対して合理的かつ経済的な対応を行うことが可能です。

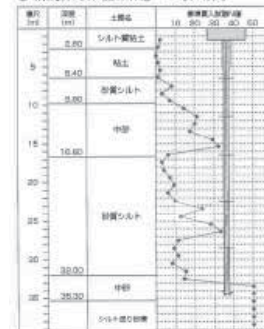


■EAZET ET 杭仕様 (mm)

	D1-D2	A寸法	B寸法	C寸法
	190.7-216.3	300	400	300
	216.3-267.4	300	400	300
	267.4-318.5	300	400	300



●新潟県「某営業所」での採用例



GL-32m以上の地盤層を支持層とする、GL-10-18m付近の中間層を貫通、上杭径φ267.4φ318.5E.T仕様としている。



旭化成建材株式会社

〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目11番11号 名古屋インターシティ5F

TEL:052-212-2165 FAX 052-212-2248

AsahiKASEI

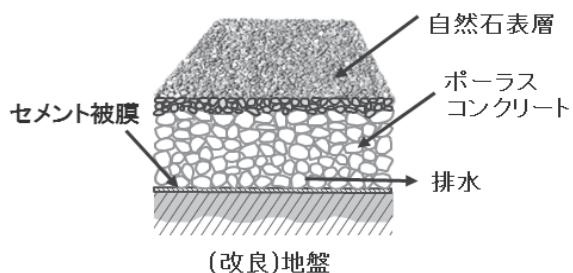
ホームページアドレス <http://www.eazet.com>

メールアドレス eazet@om.asahi-kasei.co.jp



T.N.ベース

テクノロジー オブ ニンジャ



とうすいっ!

T.N.ベース® は

ポーラスコンクリートの特性を活用した 透水性・排水性舗装技術です。雨の日にも快適な足元となります。また、ホコリっぽさがなくなり、清潔な生活空間に。アスファルトやコンクリートに比べて、夏の温度上昇が抑制されるため涼しくなります。和風・洋風、両方の建物によく調和し、美しい住環境を実現します。住宅・マンションの内外構、駐車場、店舗、ハブリックスペースなどにおすすめです。今、都市水害の減災対策としても注目されています。



マンション駐車場



病院玄関付近



寺院境内



環境への思いやりで 豊かな自然を大切に

株式会社 ファイナルマーケット

本社 〒519-1711 三重県伊賀市島ヶ原 5826-3
TEL 0595-59-9500 FAX 0595-59-3377

三重大学オフィス



〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

社会連携研究センター CI 320 TEL 059-231-5485



<http://www.fm-tnbase.co.jp>

KU-KAN Specialist

ク ー カ ン ス ペ シ ャ リ ス ト

あらゆる空間をプロデュース・・・

- 社 名 : 株式会社 誠文社
- 設 立 : 1953年
- 資 本 金 : 50,000千円
- 従 業 員 : 64名(2010,07)
- 部 門 : 営業部(営業Gr. デザイン室Gr.業務Gr.)・総務部(総務Gr.・計数Gr.)
- 拠 点 : 三重県(四日市-本社・鈴鹿・津・亀山・南勢・尾鷲)
静岡県(浜松)
埼玉県(狭山)
- 取扱メーカー : ※ 主要メーカー

編集のあとがき

3月11日、三陸沖を震源とする国内観測史上最大級の大地震が発生し、直後に起きた津波で東北地方沿岸の町がのみ込みまれ、沢山の尊い命が奪われました。震災から5か月が過ぎた今なお、新たに起きている原発問題で不便な生活を強いられている被災者の方々、また内部被ばくによる日本の食生活の異変、健康への被害も深刻化しています。一日でも早い完全復旧を願うばかりです。

また、三重県でも、今後発生するといわれている東海地震、東南海・南海地震に対し、防災対策の強化を早急に進めていかなければなりません。住民の安心・安全な生活を第一に我々が一役を担えるよう、更なる知識の向上と様々な技術を生かし、減災に向けて力を注いでいきたいです。

なお、本誌94号より、表紙のデザインを一部変更しました。今後も興味ある会誌としていきますので、皆様のご理解のほどよろしく願います。

広報・渉外委員会

担当常任理事	國分 恵之
委員長	新開 悟弘
副委員長	瀬川 宏

各支部広報・渉外担当委員

桑名支部	和波 政博
四日市支部	林 満
鈴鹿支部	古川 悦生
津支部	山路 貴裕
松阪支部	鳥羽谷和幸
伊勢支部	和田 敏男
志摩支部	中村 政文
伊賀支部	田中 敏也
紀州支部	植松 顕哉

建事協 み え

No.94

平成23年8月 発行

発行人
編集
発行所

田 端 隆
広報・渉外委員会
社団法人 三重県建築士事務所協会
〒514-0037 三重県津市東古河町8番17号
システックビル4階

TEL 059-226-4416
FAX 059-224-9297
<http://www.sekkei-mie.jp>
